

平成28年度 成績概要書

課題コード（研究区分）： 4104-426500（道受託研究）

1. 研究課題名と成果の要点

- 1) 研究成果名：平成28年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫
（研究課題名：平成28年度病害虫発生予察調査）
- 2) キーワード：病害虫発生予察、注意すべき病害虫、新発生病害虫
- 3) 成果の要約：平成28年度に実施した病害虫発生予察調査から、多発傾向にあった病害虫として14病害虫を示す。また、平成29年度に特に注意すべき病害虫として3病害虫について防除指導上の注意を喚起する。さらに、平成28年度に新たに発生を認めた病害虫として9病害虫（病害8、害虫1）を示す。

2. 研究機関名

- 1) 担当機関・部・グループ・担当者名：中央農試・病虫部・予察診断G・岩崎暁生、
中央農試・病虫部・クリーン病害虫G、上川農試・研究部・生産環境G、
道南農試・研究部・生産環境G、十勝農試・研究部・生産環境G、
北見農試・研究部・生産環境G、花・野菜技術センター・研究部・生産環境G
- 2) 共同研究機関（協力機関）：北海道農政部技術普及課、北海道農業研究センター、
北海道病害虫防除所、（全道農業改良普及センター）

3. 研究期間：平成28年度（2016年度）

4. 研究概要

1) 研究の背景

病害虫の発生はその年の発生状況や気象経過のほかに、前年の発生状況の影響を受けるため、効率的な病害虫防除を実施するためにはそれら踏まえた全道的な情報が求められる。また、道内で未確認の病害虫が突発的に発生するため、迅速な対応が求められる。

2) 研究の目的

全道での病害虫発生状況を新発生病害虫も含めて記録し、これをもとに次年度に注意すべき病害虫を示して防除指導にあたっての注意を喚起する。

5. 研究内容

1) 農作物有害動植物の発生状況

- ・ねらい：農作物有害動植物の発生状況を記録する
- ・試験項目等：18作物・86病害虫の発生状況を調査

2) 突発および新発生病害虫の診断試験および調査

- ・ねらい：道内で新たに発生した病害虫を同定し記録する
- ・試験項目等：発生調査、再現試験、同定試験

6. 成果概要

1) 平成28年に多発～やや多発した病害虫（下線は多発生となった病害虫）

- (1) 水稻：紋枯病、ヒメトビウンカ、イネミギワバエ
- (2) 秋まき小麦：赤かび病
- (3) ばれいしょ：塊茎腐敗、軟腐病、黒あし病
- (4) てんさい：根腐病（黒根病含む）
- (5) たまねぎ：軟腐病、ネギアザミウマ
- (6) だいこん：軟腐病
- (7) りんご：黒星病、斑点落葉病、腐らん病

2) 平成29年度に特に注意を要する病害虫

- (1) あぶらな科野菜のコナガ
- (2) りんごの黒星病
- (3) りんごの腐らん病

3) 新たに発生を認めた病害虫

平成 28 年度に、北海道内において以下の病害虫の発生が新たに確認された。

- (1) ばれいしょの黒あし病（病原の追加・国内新発生）
- (2) キャベツの株腐病（病原の追加）
- (3) レタスのチューリップヒゲナガアブラムシ（新寄主）
- (4) ほうれんそうのべと病（新レースの出現）
- (5) ほうれんそうの白斑病（病原の変更・追加）
- (6) ねぎの腐敗病（新発生）
- (7) リーキの葉枯病（病原の変更）
- (8) トルコギキョウの炭そ病（新発生）
- (9) ぶどうの晩腐病（病原の追加・国内新発生）

注：病害虫名の後に記したかっこ内表記の凡例は以下のとおりである。

- 国内新発生：国内での発生事例がなかった病害虫
- 新発生：道内での発生事例がなかった病害、道内に分布が確認されていなかった害虫
- 新寄主：道内に分布することが既知である害虫の、新たな作物への加害記録
- 新レースの出現：道内で発生が報告されている病原の、新しいレース
- 病原の追加：既知病害と病徴の違いの無い新たな病原の追加
- 病原の変更：道内既発生である病原の再同定による名称変更

7. 成果の活用策

1) 成果の活用面と留意点

ここに記載した病害虫について、特に今後の発生動向に注意する。

2) 残された問題とその対応

8. 研究成果の発表等